

図書館の本棚から(一般)

2021年9・10月号 亀山市立図書館

テーマ：わたしたち、三重県ゆかりの人物です。

●少女たちの羅針盤

水生 大海／著

駆け出しの女優がロケ地で渡された台本は、最初に受け取ったものとは違い……。 「お前こそが殺人者だ。……」こんな書き出しが。そして、話は4年前にその地で活躍し、メンバー一人の死で活動停止した女子高生4人で結成された演劇グループ「羅針盤」の話に移り……。 亀山市出身の作者の小説家としてのデビュー作、映画化されている。

●テミスの求刑

大門 剛明／著

敏腕検事が殺人犯？無罪を主張しながらも逃走する検事とその下で働く女性事務官。彼女には、警官だった父を殺されたという過去があった。彼女の実家が亀山市設定のためこのあたりの風景も出て来る。県内舞台の逃走劇。 作者は伊勢市出身・在住。

●めぐり逢いサンドイッチ

谷 瑞恵／著

大阪市の靱公園にあるサンドイッチ専門店「ピクニック・バスケット」。ここにはお困りごとや悩みを抱えた人たちがやってきては、絶品のサンドイッチに心癒されていく。おいしいからだけではないこのサンドイッチの秘密は読んだら納得。 作者は三重県出身、県内大学卒業。

●ぎぶそん

伊藤 たかみ／著

中学2年の少年たちが主役の青春小説。バンド「ガンズ・アンド・ローゼズ」に憧れるガクが、ギブソンのギター「フライングV」を持ち技術も持つが問題児のたける等とバンドを結成、学園祭を目指す。児童書登録されているが大人の読者にも読んでほしい一冊。

兵庫県生まれ、大阪・三重で育ち県内高校卒業（同級生に歌手の平井堅がいた）

●屋根裏の散歩者

江戸川 乱歩／著

定職に就かず、犯罪の真似事を楽しんでいた郷田は下宿の屋根裏に上がれることに気付き……。乱歩自身が、押し入れに隠れたり、屋根裏を徘徊した経験を持つことから、この話が生まれたという。

名張生まれ、亀山でも幼少期を過ごした。「屋根裏……」は父親が亀山で病氣療養をしていた家で書き上げた小説とのこと。

●お伊勢さん鳥居前おかげ縁起

千種清美／著

昔から多くのお伊勢参りの人を迎えてきた、伊勢神宮の鳥居前に暮らす人々。その豊かな自然とパワースポットに囲まれた生活を情緒豊かに描いている。

三重県出身・在住。本だけでなく映像分野でも地元情報を発信している。

●150cmライフ。

たかぎ なおこ／著

身長150cmの著者が実際の生活の中で感じた、低身長（作者が思うに）がゆえに感じた悲喜こもごもを綴ったコミックエッセイ。作者のデビュー作。

四日市市生まれ、単身東京に出て今に至る。

